

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究会 2014 年度研究大会

2014 Annual Conference of Mother Tongue, Heritage Language, and Bilingual Education (MHB) Research Association

テーマ： マルチリテラシーの育成

国内外の複数言語下の、主として子どもが、読み書きも含むマルチリンガル能力を身につけられるような教育を目指して、その方法、理論、研究方法を探る。

日時： 2014 年 8 月 5 日（火）－ 7 日（木） 10 時－ 17 時

場所： 国際基督教大学（ICU）ディッフェンドルファー記念館（DMH）、本館（H）

実行委員会：宮崎幸江（上智大学、実行委員長）、小澤伊久美（ICU）、鈴木庸子（ICU）、原瑞穂（上越教育大学）

後援： 国際基督教大学教育研究所

参加者： 161 名（参加費納入人数。無料のセッションのみの参加者も含めると若干上回るとされる。）
研究者、学校関係者、保育関係者、一般市民、学生らが、日本、韓国、米国、フランス、ドイツ、台湾、中国、香港、タイ、カナダ、オーストラリア、スウェーデン、イタリア等世界各地から参加した。

研究大会概要

1. 基調講演

「考える力を育てることばの教育～メタ認知を活かした授業デザイン～」

内田伸子氏（十文字学園女子大学特任教授）（於ディッフェンドルファー記念館オーディトリウム）

2. 大会プレセッション

「新しいカリキュラム作りとクリティカルシンキングを入れた ICT の活用」

津田和男氏（国連国際学校教諭）（於本館 116 号室）

3. 研究発表

ポスター発表 6 件、デモンストレーション 3 件、口頭発表 6 件が行われた（於本館 1 階教室）。

4. 部会活動

インターナショナル・スクール部会、アセスメント部会、バイリンガル作文部会、海外継承日本語部会の 4 つの部会が会合を持った（於大学食堂および本館 1 階教室）。

スケジュール

8月5日（火）	9:30	受付	H-1F
	10:00-17:00	大会プレセッション（レクチャー、デモンストレーション、インターナショナル・スクール部会）	H-116, 大学食堂
8月6日（水）	10:00-12:00	アセスメント部会	H-116
	12:00-13:00	昼休憩	大学食堂ほか
	13:00-15:00	アセスメント部会	H-116
	15:00-17:00	バイリンガル作文部会	H-170
8月7日（木）	9:30	受付	DMH
	10:00-12:00	開会 基調講演	DMH オーディトリウム
	12:00	昼休憩	大学食堂
	12:30-13:30	ポスター発表	H-152, H-168
	13:00-14:00	デモンストレーション発表	H-157, H-159, H-167
	14:15-16:00	口頭発表	H-116, H-170
	16:00-18:00	海外継承日本語部会 研究大会終了	H-116

研究大会の内容

1. 基調講演

「考える力を育てることばの教育～メタ認知を活かした授業デザイン～」

内田伸子氏（十文字学園女子大学）（司会 清田淳子氏（立命館大学））

講演概要：

「幼児期から学力格差は始まるか」「学力調査結果の問題の解決：学力上位校と学力下位校を分ける要因分析と論理科のカリキュラム開発および実践」「学ぶ意欲をはぐくむ教育・対話型の教育」について、豊富な調査実験結果に基づいて解説がなされた。幼児期の遊びと周囲の共有的な接し方が学力に結びつくこと、学力上位校と学力下位校の要因分析から、因果律を意図的に教えるカリキュラム「論理科」を開発して実践し効果が認められたこと、構成主義学習観に支えられた対話学習は、学習素材、教師の役割、省察によるメタ認知が重要であり、学ぶ意欲を高めるために子供を待ち、聞く洞察とスキャフォールディングが必要であることが述べられた。

2. 大会プレセッション

「新しいカリキュラム作りとクリティカルシンキングを入れた ICT の活用」

津田和男氏（国連国際学校）（司会 大山全代氏（フォーダム大学））

レクチャー概要：

内容重視のインストラクションとして米国のスタンダードである 21 世紀スキル、欧州スタンダード、IB プログラム、CLIL について概説し、次に、授業理念を構築した後にカリキュラムを形成していく Understanding by Design (UbD) の手法を紹介した。さらにサーキュレーションとルーブリックを活用したカリキュラムの評価に触れた。なお 8 月 5 日夜、9 日、10 日にはこのプレセッション参加者を対象としたハンズオンのワークショップを開催した。於大学食堂ならびに第二教育研究棟 201 号室）

3. 研究発表

ポスター発表 6 件、デモンストレーション 3 件、口頭発表 6 件が行われた。国内外の日英、日中、日葡、日西、モンゴル語と中国語等のバイリンガル児童生徒および大学生にかかわる諸問題として、アイデンティティ、学習言語の習得、家庭における実践、教育機関における実践や教育方法の研究についての発表があった。ほかに母語教育の重要性を啓蒙するウェブサイトの開発、フランスの教育施策の紹介があった。

口頭発表第一会場司会は加納なおみ（お茶の水女子大学）、平田昌子（第一工業大学）両氏、第二会場司会は服部美貴（国立台湾大学）、櫻井千穂（大阪大学、日本学術振興会特別研究員）の両氏。

発表タイトルと発表者

ポ ス タ ー セ ッ シ ョ ン	バランスのとれたバイリテラシーの言語意識とアイデンティティ —国内インターナショナル・スクール出身者に注目して—	熊本愛子（桜美林大学大学院修了生）
	中華学校における日中バイリンガル教育の方法	Yuan.馬場裕子（立命館大学）
	多言語背景の児童を対象とした理科の日本語テスト開発に向けた語彙調査 —学年別にみた「エネルギー」分野における語彙の傾向—	田中裕祐（筑波大学）、甲斐晶子（同）、 関裕子（同）
	越境する日中英マルチリテラシー育成——北京の日中国際結婚家庭の教育戦略	柳瀬千恵美（九州大学）
	中国在住親子に対する「親子で日記」の活用	飛田美穂（桜美林大学大学院修了生）
	フランスにおけるCLD児のための教育 —CASNAVについて—	グレゴリー・デュメン（アリアンス・フ ランセーズ仙台）、鈴木庸子（ICU）

デモン スト レー シ ョ ン	アメリカンスクールで学ぶ児童のiPadを活用した同音異義漢字学習	川上里沙（アメリカンスクール・イン・オキナフ）
	継承日本語話者である大学生のための日本語教育 —カリキュラム・ブレースメント・教材開発・授業案—	田中和美（ICU）、尾崎久美子（同）、小澤伊久美（同）、鈴木庸子（同）
	母語・継承語育成支援のためのウェブサイト構築	久保田真弓（関西大学）、松田陽子（兵庫県立大学）、落合知子（神戸大学）、北山夏季（大阪府立大学）
研 究 発 表	低学年で来日した言語少数派の子どもの二言語を介した想像力の発達 —国語物語文読解におけるやり取りから—	滑川恵理子（早稲田大学）
	ブラジル学校高校生のポルトガル語力と日本語力—作文力調査を踏まえて	小貫大輔（東海大学）、リリアン・テルミ・ハタノ（近畿大学）、シゲヨ・ミゾグチ（東海大学）
	小・中学生の日英バイリンガル作文におけるPREWRITINGの実態 —継承語教育の立場から—	中島和子（トロント大学）、中野友子（ブルックリン日本語学園）、福川美沙（バルセロナ補習授業校）、佐野愛子（北海道文教大学）、生田裕子（中部大学）
	日系ペルー人の子どもの継承語	仲江千鶴（昭和女子大学）
	内モンゴルのモンゴル語母語話者の言語使用—中国語の影響について	薩仁図亜（明海大学）
	地域の母語支援者の意識は、教科学習支援を通してどのように変容したか —子どもに望む学びの語りに着目して—	高梨宏子（お茶の水女子大学）、三輪充子（子どもランブ）、清田淳子（立命館大学）、宇津木奈美子（帝京大学）

4. 部会活動

インターナショナル・スクール部会、アセスメント部会、バイリンガル作文部会、海外継承日本語部会の4つの部会の会合が行われた。インターナショナル・スクール部会は大会プレセッションの企画主体として当日の昼休みに簡単な情報交換会を、アセスメント部会はオンラインテストに関する研究発表およびインタビューによるアセスメント実践の報告と交流会を行った。バイリンガル作文部会はトロントで行われた日英語のバイリンガル作文調査について、研究報告と交流会、海外継承日本語部会は、各国事情のパネルディスカッション、オンラインサイトの紹介と利用について、海外継承語関係者アンケート調査の紹介と協力依頼の後、情報交換会となった。

各部会プログラムのディスカッションを除くプログラムは以下の通り。

アセスメント部会		
多文化背景にある年少児向けオンラインテスト開発に向けて	河野あかね（筑波インターナショナル）、清水秀子（嘉悦大学）、田中裕祐（筑波大学）	
対話型アセスメント（DLA）の開発と運用の課題	櫻井千穂（大阪大学）	
藤沢市立長後小学校国際教室の実践報告-DLAの活用と自尊感情の形成に向けて	齋藤智慶（藤沢市立長後小学校国際教室）	
日本語とスペイン語を用いた継承スペイン語教室	河北祐子（上智大学）、佐伯グラシエラ（アミゴス・エスパネセス）、サンチェス・ジュリア（同）	
バイリンガル作文部会		
作文データのデータベース構築について	佐野愛子（北海道文教大学）	
海外継承日本語教育部会		
パネルディスカッション：台湾、ドイツ、スウェーデン、オーストラリア、韓国、米国から地域状況の紹介	服部美貴（国立台湾大学）、札谷緑（ドイツ VHS マールブルク）、瀬戸嶋菊子（スウェーデン マルメ市母語教育課）、岸田理恵（オーストラリア ブリスベン日本学園）、櫻井恵子（韓国継承語教育研究会）、中野友子（米国 ブルックリン日本語学園）	
ウェブサイトの紹介と海外継承日本語教育関係者アンケート報告および協力依頼	根津誠（国際交流基金）、鈴木庸子（ICU）、カルダー淑子（プリンストン日本語学校）	

Theme: Fostering Multiliteracy
Through this conference, participants seek for methods, theories and research approaches that allow students under multilingual environment to develop a multilingual ability including reading and writing.

Date: August 5th 2014 (Tuesday)- August 7th (Thursday) from 10AM-5PM

Location: International Christian University, Diffendorfer Memorial Hall and University Hall

Committees: Sachie Miyazaki (Sophia University, committee chair), Ikumi Ozawa (International Christian University), Yoko Suzuki (International Christian University), Mizuho Hara (Joetsu University of Education)

Supported by: Institute for Educational Research and Service, International Christian University

Participants: 161 participants: Researchers, Educators, Pre-school teachers and nurses, Students, from Japan, Korea, USA, France, German, Taiwan, China, Hong Kong, Thailand, Canada, Australia, Sweden, Italy, etc.

Overview

1. Keynote Speech
"Language education that nurtures the ability to think: Applying metacognition into designing an instruction" by Prof. Nobuko Uchida Ph.D. (Jumonji University), at Diffendorfer Memorial Hall (DMH)
2. Pre-conference session
"Designing a new curriculum and implementing critical-thinking based ICT" by Mr. Kazuo Tsuda at University Hall room 116
3. Research presentation
Six poster presentations, three demonstrations, and six oral presentations at University Hall (H) 1st floor
4. The special interest group (SIG) meetings
International School SIG meeting, Assessment SIG meeting, Bilingual Writing SIG meeting and Overseas Japanese Heritage Language SIG meeting (at the University Dining Hall (Cafeteria) and University Hall 1st floor)

Schedule

8/5(Tu)	9:30	Reception	University Hall (H) 1F
	10:00-17:00	Pre-Conference session (lectures, demonstrations and International School SIG meeting)	H-116, Cafeteria
8/6(W)	10:00-12:00	Assessment SIG meeting	H-116
	12:00-13:00	Lunch break	Cafeteria
	13:00-15:00	Assessment SIG meeting	H-116
	15:00-17:00	Bilingual Writing SIG meeting	H-170
8/7(Th)	9:30	Reception	DMH
	10:00-12:00	Keynote speech	DMH Auditorium
	12:00	Lunch break	Cafeteria
	12:30-13:30	Poster presentations	H-152, H-168
	13:00-14:00	Demonstrations	H-157, H-159, H-167
	14:15-16:00	Presentations	H-116, H-170
	16:00-18:00	Overseas Japanese Heritage Language SIG meeting	H-116

1. Keynote Speech

"Language education that nurtures the ability to think: Applying metacognition into designing an instruction" by Prof. Nobuko Uchida Ph.D. (Jumonji University)

Overview of the keynote

The topics presented based on the results from numerous surveys and experiments are shown as below:

"Does academic disparity take place from early childhood?"

"Solutions for a problem regarding an academic ability survey: Analyzing a cause that differentiates academically high-ranked schools and low-ranked schools, designing and practicing a curriculum for logical thinking"

"Education that cultivates student's willingness to study and dialogue-oriented education"

Based on the research, it was clear that early childhood's play and the child's interaction with people in a given community may determine the child's academic ability. Also, from the analysis of academically high-ranked and low-ranked schools, it was shown that there was a positive effect when a teacher practiced a curriculum that intentionally encouraged students to think the cause and effect of a problem. Lastly, the keynote concluded with a claim that the dialogue-oriented learning supported by the constructionism study point of view needs metacognitive reflection of learning materials and the teacher's role. Specifically, the teachers need insightful listening and scaffolding in order to maintain students' motivation at a high level.

2. Pre-conference session

"Developing a new curriculum and applying critical thinking based ICT in the curriculum" by Mr. Kazuo Tsuda (The United Nations International School (UNIS))

Contents:

The session began by an overview of the focused 21st century instruction skills (the American standards), the IB program (the European standard), and the CLIL. Next, Mr. Tsuda introduced "Understanding by Design (UbD)," which is a process of understanding and formulating a lecture ideology in order to design a curriculum. In addition, he introduced a method to evaluate a curriculum utilizing circulations and rubrics. On Aug. 5th evening, 9th and 10th, there were also hands-on workshops for those who participated in the pre-conference session (at Cafeteria and Educational Research Building 2, 201).

3. Research presentation

There were six poster presentations, three demonstrations and six oral presentations. They presented on problems related to young bilingual students and bilingual college students who speak Japanese-Chinese, Japanese-Portuguese, Japanese-Spanish and Mongolian-Chinese. They also presented on how the bilingual students acquire different languages,

on how they establish their identities, and on how they practice their languages at home. Furthermore, they presented research on the practice of and educational methods of the respective educational institutions. Lastly, there was an introduction of the educational policies in France and an introduction of an ongoing website development that emphasizes the importance of mother language.

Title and presenters

Poster sessions	Language Awareness and Identities of Balanced Bi-literates: Focusing on graduates of international schools in Japan	Aiko Kumamoto (J. F. Oberlin University)
	The methods of bilingual education in Chinese schools in Japan	Hiroko Baba Yuan (Ritsumeikan University)
	Vocabulary survey for developing a science Japanese test to children with multilingual backgrounds: Tendency in energy related vocabulary in different grades	Yusuke Tanaka (University of Tsukuba), Akiko Kai (University of Tsukuba), Yuko Seki (University of Tsukuba)
	Nurturing multi-literacy, crossing the borders among Japanese, Chinese and English: Educational strategy for an international marriage couple between the Chinese and the Japanese in Beijing	Chiemi Yanase (Kyusyu University)
	An international marriage family in China using the " Family-shared Diary" as a language teaching tool for their child	Miho Tobita (J. F. Oberlin University)
	Education for CLD child in France: About CASNAV	Grégory Dumaine (Alliance Française de Sendai), Yoko Suzuki (ICU)
Demonstrations	Using iPad to learn homonymous Chinese characters at AmerAsian School in Okinawa	Risa Kawakami (AmerAsian School in Okinawa)
	Japanese language education for college students as heritage language speakers: Curriculum, placement, teaching material, and lesson plan	Kazumi Tanaka (ICU), Kumiko Osaki (ICU), Ikumi Ozawa (ICU), Yoko Suzuki (ICU)
	Developing a website that supports mother tongue and heritage language	Mayumi Kubota (Kansai University), Yoko Matsuda (University of Hyogo), Tomoko Ochiai (Kobe University), Natsuki Kitayama (Osaka Prefecture University)
Presentations	Developing creativity of a student who's in the context of using minor languages and has come to Japan at an early elementary school grade: From Japanese narrative reading point of view	Eriko Namekawa (Waseda University)
	Portuguese and Japanese multilingual skills among high school students of Brazilian schools in Japan: Results of a study on their writing expertise	Daisuke Onuki (Tokai University), Lilian Terumi Hatano (Kinki University), Shigueyo Mizoguchi (Tokai University)
	An exploratory study on prewriting among G1-G9 Japanese-English bilingual writers: From a perspective of heritage language development	Kazuko Nakajima (University of Toronto), Tomoko Nakano (Brooklyn Nihongo Gakuen), Misa Fukukawa (Hoshuko Barcelona Educación Japonesa), Aiko Sano (Hokkaido Bunkyo University), Yuko Ikuta (Chubu University)
	Japanese Peruvian Children's heritage language	Chizuru Nakae (Showa Women's University)
	The language use of native speakers of Mongolian in Inner Mongolia: Chinese language's influence	Sarentuya (Meikai University)
	Consciousness change of native supporters in subjects learning support: Focus on what native supporters tell regarding their students learning	Kouko Takanashi (Ochanomizu University), Mitsuko Miwa (NPO Kodomo LAMP), Junko Kiyota (Ritsumeikan University), Namiko Utsuki (Teikyo University)

4. Overview of SIG meetings

There were mainly four special interest group meetings: 1) International School SIG meeting, 2) Assessment SIG meeting, 3) Bilingual Writing SIG meeting and 4) Overseas Japanese Heritage Language SIG meeting. The International School SIG meeting was held as the main and independent event at lunchtime during the pre-conference session, where people exchanged information. The Assessment SIG meeting presented the research on online-testing and DLA practice. The Bilingual Writing SIG meeting introduced the result from English bilingual writing survey conducted in Toronto. Lastly, the Overseas Japanese Heritage Language SIG meeting held panel discussion on the trends in heritage education and introduced available websites related to the topic.

The each SIG meeting's program

Assessment SIG meeting	
Developing online tests for children with multicultural backgrounds	Akane Kono (Tsukuba International School), Hideko Shimizu (Kaetsu University), Yusuke Tanaka (University of Tsukuba)
Advantages and disadvantages of using Dialogic Language Assessment (DLA)	Chiho Sakurai (Osaka University)
Report on international class at Fujisawa City Chogo elementary school: DLA usage and developing self-esteem	Toshinori Saito (Fujisawa City Chogo Elementary School, International Class)
Heritage Spanish class taught in Spanish and Japanese	Yuko Kawakita (Sophia University), Graciela Saiki (Amigos Espaneses), Julia Sánchez (Amigos Espaneses)
Bilingual Writing SIG meeting	
Bilingual Young Writers Corpus (BYW Corpus) Development Project	Aiko Sano (Hokkaido Bunkyo University)
Overseas Japanese Heritage Language SIG meeting	
Trends in heritage education: Action reports from Taiwan, Germany, Sweden, Australia, Korea, and the USA.	Miki Hattori (National Taiwan University), Midori Satsutani (VHS Marburg), Kikuko Setojima (Mother tongue division, Malmö, Sweden), Rie Kishida (Japanese Language and Culture School of Brisbane), Keiko Sakurai (Korea Association for Heritage Language Education), Tomoko Nakano (Brooklyn Nihongo Gakuen)
Introduction of a website, presentation of a survey held among participants at the Overseas Japanese Heritage Language SIG and request for cooperation	Toshiko Calder (Princeton Community Japanese Language School), Makoto Netsu (Japan Foundation), Yoko Suzuki (ICU)

MHB 研究会 (MHB Research Association) URL

<http://mhb.jp/>

MHB インターナショナルスクール部会 (MHB International School SIG) URL

<https://sites.google.com/site/mhbinternationalschool/>

MHB 海外継承日本語部会 (MHB Overseas Japanese Heritage Language SIG) URL

<https://sites.google.com/site/keishougo/>

鈴木 庸子・小澤 伊久美
SUZUKI, Yoko & OZAWA, Ikumi